

## 市民意見交換会を踏まえた新計画への要反映事項の提言

— 各館での意見交換を踏まえた計画への要反映事項は「別紙」参照

1. 新計画は図書館の「事業」ではなく、市民に対する「約束」であるべき
2. 新計画は市民の意見を踏まえ、今できることではなく、将来的に目指す姿を描くべき
3. 以上を踏まえ、新計画は「多摩市の図書館サービス計画」として策定されるべき
4. 地域館の計画は、立地条件(駅前かどうか)にかかわらず、地域と向き合う内容とすべき  
<駅前拠点館だけ区別するのは不適切>。行政資料室の計画の立案も必要
5. 新計画において新たに策定する地域館の計画は、図書館職員と市民とが知恵を出し合って策定する必要があり、地域館レベルでの継続的な意見交換の場が不可欠である
6. 地域館が主体的に計画を立案するためには、地域館の自律的、主体的運営に向けた意識改革が図書館全体として必要である
7. 地域館の主体的運営を実現するうえで、館長の兼務体制は制約要因であり、人材育成の観点も含め、見直しが必要である。兼務が続く間は、館長のカウンター執務の免除など、兼務先地域館への関与の余裕を早急に確保すべき
8. 複合施設のあり方が議論される中で、図書館として地域館の機能や規模などの基準を計画に明記すべき
9. 中央館に手厚く、地域館が手薄(運営形態の見直しも未了)な現状を見直し、人材や蔵書のバランスの再検討が必要
10. 中央館の役割やスペースの活用も検討課題とすべき。「調べる」を支援し、市民同士の学びを支援できるよう、また個人勉強以外の来館者にも活用しやすいゾーンの検討など、新計画期間の課題としたい
11. 新計画の推進は、図書館事務局と館長が諮問する図書館協議会による「内部評価」だけでは不十分で、市民の意見やアンケート、市民団体や子ども読書に関わるボランティア連絡会による評価などを含めた形で、PDCAを回していく必要がある
12. 図書館協議会の機能は計画の評価だけでなく、他の重要な課題の審議も含めるなど、有効活用が必要。協議会委員はもっと市民との対話の場に参加すべき

## 市民意見交換会の参加実績および出席者発言と新計画への要反映事項

(意見交換会開催の評価や意義と留意事項)

・育てる会の重複出席者、事務局を除くと、34名の参加にとどまった(開催順の出席者:人)

開催館名等	中央	豊ヶ丘	永山	東寺方	唐木田	関戸	聖ヶ丘
単純計 43	9	7	4	8	4	3	8

・参加者は拠点館で少なく&lt;関戸は育てる会会員のみ&gt;、地域館が多かった

・若年層の参加はなく、高齢者の参加が主体で、ごく一部中堅層。友の会的組織の存在が大きいと評価。一般参加者の新計画の関心や意見交換のニーズは高まらなかった可能性

・図書館側の説明者は館長と企画運営のみ(地域館職員はなし)

—意見交換会での市民意見に対する館長の回答内容は、現状できる範囲内が殆どだった

(反映の基本的な考え方)

・現在の枠組みで何ができるか、より、むしろ「将来何をどのように目指すべきか」の視点で考える

(要反映事項)

○計画の体系

・読書(推進)計画の名称はおかしい、運営全般にわたる内容になっている

・網羅的でなく、重点が分かる計画にしてはどうか

・計画は図書館の事業のためのものでなく、どういったサービスを実現するか市民への約束

・1次計画の評価、未達成部分を市民に見えるように示すべき

・月次統計で、閉館前の本館と中央館を連続グラフで示すのはおかしい

・図書館の年齢別利用と市全体の年齢構成を比較して示すべき

○各図書館の役割分担

・駅前拠点館も地域に向き合うサービスを考える必要(特に関戸館)

・説明部分に行政資料の説明も入れるべき。行政資料室の機能もこれからもっと重要

○計画の推進体制

・計画の推進体制の説明図に「市民」の評価がない、施策 22 の市民ニーズの把握、反映を踏まえた図にするべきで、計画に織り込むならこの図は修正してほしい

・計画の推進、チェックに市民の声が反映される体制にしてほしい(視覚障がい者)

・図書館協議会は外部評価とは言えない

・図書館協議会が事業計画評価に終始している現状を改善し、活用を再考すべき

## ○基本方針・施策

### 基本方針①

- ・施策 1:誰もが利用しやすい環境、は中央館では高齢者の居場所がなく、多摩センター周辺居住者以外は地域館に回帰
- ・地域館の開館時間を延長すべき。聖ヶ丘館は若者が利用できるようスペース見直しも一案
- ・予約しても手元に来ない本がある。貸出禁止図書を設けてはどうか
- ・施策 2:レファレンスなど図書館サービスをもっと PR すべき、地域のボランティアをもっと活用し、低年齢層への働きかけ、図書館の蔵書など PR すべき
- ・施策3:若者の図書館利用の促進、は勉強場所に偏っているのでは。中央館のゾーニング、ラーニング commons の本来の使い方など、利用者とも相談が必要
- ・施策 5:多文化サービス充実のため、外国語の寄贈本を受入れてはどうか
- ・施策 6:読書バリアフリーに電子図書の活用余地があるなら、障がい者施設のある地域館での PR など工夫余地

### 基本方針②(子ども読書)

- ・児童サービス担当の図書館職員がボランティアの現場に出向き実情を把握したうえで、出張お話し会などの企画を考えるべき
- ・施策 10,20:ボランティア連絡会の開催回数を増やすなど、密なコミュニケーションを要望
- ・施策 11 が、「市立小中校への協力支援」という表現で、校種限定されているのは市民の理解が得にくい
- ・低学年までは配架された紙の本から選ぶので(大人は予約取り寄せ)、基本的な児童書は各館にそろそろよう配慮を要望

### 基本方針③

- ・施策 13「レファレンスサービス」について、中央館自体が調べものに向かない設え。新計画では本気で調べもの支援に取り組んでほしい
- ・施策 17:各図書館の地域性を活かしたサービス、とあるが、地域性の把握や計画づくりは、市民や利用者のニーズを把握し、職員と市民が対話しながら進める必要がある(職員と話してもなんでも本館伺いで中央集権的色合いを感じる)
- ・「いちいち中央館にお伺い」に同感。館長不在のなか、地域館で職員に意見を伝えても一向に返事がない、先に進まない。地域館で判断できるようにすべき。もっと地域の人材も活用すべきでは
- ・館長兼務を将来的には解消する方向で、まずは館長の窓口業務の兼務を免除し、関戸の場合なら兼務している東寺方や聖ヶ丘に出向ける余裕を確保すべき。すぐに移行できないにしても計画に課題として盛り込み、負担の軽減などできるところから実施してほしい
- ・施策 17:「各図書館の地域性」は中央館・駅前・地域館とも例外なく考慮すべき。関戸のように地域とのつながりが見えないまま、「駅前拠点館」で繁忙、だけで地域性が見えない

- ・地域館の良さ(児童コーナーの充実など)をもっとアピールすべき
- ・利用者の構成(高齢者が多いなら健康や認知症、ケアなど)や地域特性(例えば障がい者や福祉施設の支援)を考慮した配架にすべき
- ・地域コミュニティにおける地域館のあり方、考え方を提示してほしい(図書館側が自らの考えを示さないと、市役所内の力学で、図書館が図書室に格下げになり、地域館が本来の機能が果たせなくなる)
- ・中央館に人も本もシフトし、地域館の人員体制が周辺自治体の地域館に見劣り。地域館の魅力がますます後退。全館の運営体制をしっかりと考え、地域館の望ましい姿をきちんと書き込んでほしい
- ・中央館開館後の蔵書減で魅力が激減、先行き危機感を覚える。東寺方は子育て世代も増え将来性のある地域、図書館が先細ればますます利用者離れにつながる
- ・第1次計画では当初地域館の廃止方針、中央館開館時には地域館の計画は先送り、今回の計画にこそきちんと地域館のことを書くべき。図書館としての方針が出されないままに豊ヶ丘では複合館で図書館も扱われている
- ・ベルブ永山改修時: 学習席を増やす。録音室・対面朗読室残す。おはなしの部屋を作る。
- ・市民意見交換会は毎年(半年ごとなど)全館で実施し、市民ニーズを踏まえて各館のサービス計画をつくるべき<図書館員は地域性を分かっているとの事務局認識はおかしい>
- ・施策 16:読書活動に取り組む団体からの声を拾い上げる機会をもっと増やすべき(ボランティア連絡会の開催回数)

#### 基本方針④

- ・施策 18:唐木田や東寺方の運営試行の見直しが遅れているとのことだが結論を出して方向性を明確にすべき
- ・施策 19:ICTの活用とあるが、市の施策であるDX(=行政改革)の一環として業務の見直しに図書館も取り組むべき
- ・電子化などにより、行政資料室の位置づけや陣容を再検討すべき
- ・施策 20:ボランティア活動は(中央館のイベントだけでなく)地域館やその周辺で活動する地域人材を活用すべき
- ・施策 22:市民ニーズを把握するため、アンケートにより計画の評価を行うべき